

文学部・文系共通事務部のみなさまへ

2017 年度アンケート調査に ご協力ください。

* 特定・特任教員・非常勤講師の方々 *

---組合に加入されていない方・派遣の方々も---

回答期間: 12月6日(水)~12月19日(火)

投函場所: アンケート回収BOX

(文学部教官メールBOX史学科系の上に設置)

Web サイト <http://goo.gl/hmJ1Zf> も

是非ご利用ください。

けやき



No. 603 (1)
2017.12.5

京大職組
文学部支部

アンケート調査のお願い

文学部・文系共通事務部ではたらく教員・職員のみならず

本年7月、京都大学は、「世界最高水準の教育・研究・社会貢献を目指す大学」として「指定国立大学」に選定されましたが、その教育・研究の現場は、有期雇用教職員の支えがなければ成り立たないものになっています。雇用の期限を迎える教職員の方に、その経験を活かして、さらに継続してはたらいただける環境をつくっていくことは、教職員組合だけでなく、京都大学全体にとって重要な課題です。

軍事研究を促す動きにどのように向き合うかという問題も、現在の大学が直面している課題の一つです。日本学術会議は本年3月、新しい声明をだして、戦争と軍事目的の研究を行わないとする過去2回の声明を「継承する」ことを表明しました。しかし、軍事利用につながる研究を規制する具体的な制度づくりについては、個々の大学の判断にゆだねられています。

これらの問題にとり組むためには、わたしたち教職員一人ひとりが、はたらく現場の実態をふまえて、意見や要望を表明することが重要です。教職員組合文学部支部では、今年も大学ではたらくみなさまの意見や要望を集約するためにアンケートを実施いたします。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



文学研究科図書館は専修ごとに異なる分類を用いている。そのため、新しい専修ができた時、専修が合併したりした場合、新たに分類を付与したり分類替えをしたりしなければならぬ。

現在、図書の分類には、附属図書館は国立国会図書館分類表 (NDL) を採用し、吉田南総合図書館は日本十進分類法 (JL) を採用しているが歴史的に見れば、附属図書館では一九八二年までは「旧分類」と呼ばれる「京都帝国大学図書館和漢書分類法/洋書分類法」という独自の分類法を用い、吉田南総合図書館では(当時は「教養部図書館」という名称であったが)一九八六年までは「教養部図書分類」という独自の分類法を用いていた。

なぜこうした切替が行われたのかについて調べてみると、関係者によって様々な証言が出てきて興味深い(例えば「図書館が受け入れる資料の質と量の変化に伴い、従来の分類法では対処しきれなくなった」など)。

現在の文学研究科図書館の分類についても、どのようにして現在の分類が採用されるに至ったかを調べれば、面白い図書館史の研究になるようにも思えるが、なかなか調べるための資料が残っていないのが難点である。



今野創祐

情報検索ごぼれ話

③





好評です！

当支部ならではの贅沢なイベント



文学部出身専門家による解説付で観覧

平成29年度特別展

「国宝公開 火焰型土器と西の縄文」

Flame Pots Flame Pots —Jomon-esque Japan Jomon-esque Japan2017—

2017年10月12日

文化企画 第1弾

富井眞先生（文化財総合研究センター）の案内で見学会を行い、18名が参加しました。

博物館見学会に参加して・・・

土偶は思ったより、とても小さくて、かわいらしかったです。あのような小さなかけらを発掘されるまでに、どれほどの時間をかけて取り組まれたことでしょうか。

大学構内や周辺でも発掘されたというのを知り、教科書の中でしたか知らなかった縄文文化を少し身近に感じました。

一つ一つが作品としての存在感を放ち、前と後ろがあるということにも驚きました。

大きな突起、立体型の模様は、実際に使用するのには、実用的ではないにせよ暮らしの中に美を取り入れたいという人々の心の表れでしょうか。

教科書でしか見たことがなかった縄文土器を初めて目にする機会に恵まれ興味深く、縄文文化を感じ入ることができた有意義な時間になりました。

先日は、火焰型土器と西の縄文企画展に参加させていただきありがとうございました。

実質的より 暮らしの美



国宝
火焰型土器

平成29年度特別展

「大地の形をつかむ」—方法としての三次元—

Topographical Models and Surveying Instruments in Kyoto University

文化企画
第2弾！

日時：12月8日（金）昼休み 12：15～

案内・解説：米家泰作先生

集合場所：博物館 1階ロビー

（入口で職員証を提示し受付を済ませてください。）

※どなたでもご参加いただけます。

地理学の米家先生に案内＆解説をお願いして行きます。

解説は十二時十五分スタートです。

みなさん、お誘いあわせのうえ、どうぞご参加ください。未組合員の方もOKです。

大地は決して平板ではなく、地理の理解には立体である地形に対する深い洞察が欠かせません。その際、二次元に投影された地図だけでなく、地表面を三次元のものとして捉える様々な模型、測量器具類を用いることが重要な役割を果たします。

本企画展では、100年余りの歴史を持つ京都大学の地理学研究・教育において、収集・使用されてきた地形模型をはじめとする様々な資料や測量器を一堂に並べ紹介します。また、これにより、地理学が人文社会科学のみならず、自然科学の素養をも必要とする「総合」の科学であることを明らかにしていきます。地形の凹凸に注目することで立ち現れる魅力あふれる地理学の世界を、ぜひ体感してみてください。

（京都大学総合博物館のHPより）

